１　主　題　　みんなで考えよう！学びを深めよう！（３年目）

～　ICT の活用を通して　～

２　研究のねらい

本校では、令和４年度から「みんなで考えよう！学びを深めよう！」をテーマとし、「『協働的に学ぶ児童』を育てるための３ステップ」(P2参照)を柱に、「協働的に学ぶ児童」の育成を目指した実践に取り組んでいる。

一昨年度では、単元の導入場面において、写真や動画などの資料提示を行い、児童の興味関心や学びに対する課題意識を高めた上で、学習課題を設定することで、ステップ１「主体的に学ぶ児童」に近づくことができた。昨年度では、単元の展開場面において、学習課題を解決するために思考ツールや学習形態を工夫し、他者と対話をしながら学びを進めていくことで、ステップ２「対話的に学ぶ児童」に近づくことができたと考える。そこで、本年度では、単元のまとめ場面において、ステップ３「学びの深まりや自己の成長を実感する児童」の育成を目指していく。

名古屋市は今年度より、学校園全ての教職員及び、子ども達に関わる全ての大人が共通認識をもって教育を進めることができるよう、学びの方針として『ナゴヤ学びのコンパス』を策定している。その中の重要事項として、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実による授業改善」が挙げられている。名古屋市が目指す「ゆるやかな協働性の中で自立して学び続ける児童の姿」を目指す上で、「協働的に学ぶ児童」の育成は欠かせないものである。

以上のことから、令和６年度でも引き続き「みんなで考えよう！学びを深めよう！」をテーマに、ステップ３「学びの深まりや自己の成長を実感する児童」に焦点を当てた実践を行い、本校の目指す児童像に近づきたい。

【『協働的に学ぶ児童』とは…】

- 自分の考えと相手の考えのよい点や違いを見付けることができる。
- 自分と相手の考えを組み合わせながら課題を解決することができる。
- 活動を通して、より深く理解したり、新たな課題を見出して、解決策を考えたりすることができる。

(文部科学省 HP より抜粋)

３　本研究の計画

重　点　的　に　取　り　組　む　内　容		
年度	**単元**	**「協働的に学ぶ児童」の育成を目指して**
R４年度（１年目）	導入	主体的に学ぶ児童
R５年度（２年目）	展開	対話的に学ぶ児童
R６年度（３年目）	**まとめ**	**学びの深まりや自己の成長を実感する児童**

※　単元を通した「導入→展開→まとめ」の流れは、『ナゴヤ・スクール・イノベーション』を参考。

４　研究の方法

【『協働的に学ぶ児童』を育てるための３ステップ】

①　主体的に学ぶ児童

単元の導入部分において、児童が「知りたい！考えたい！」と思える学習課題を設定する。児童一人一人が課題を設定し、どのような手段を用いて課題を解決していくかを計画し、活動する児童に対し、個に応じた指導をすることで、主体的に学ぶ児童が育つと考える。

②　対話的に学ぶ児童

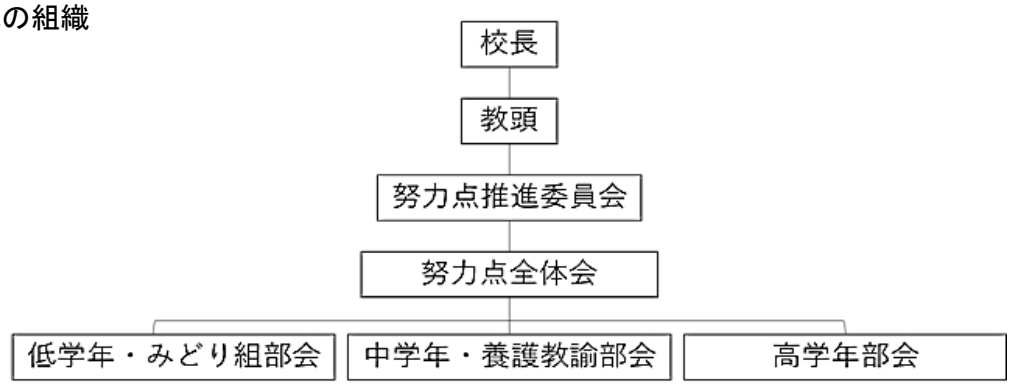
児童の主体性が育つと、「自分の考えを伝えたい！友達の考えを知りたい！」という思いが生まれる。そこで、学習課題を解決するために、他者との対話を取り入れる。話形を整えたり、学習形態を工夫したりすることで、意見を共有しながら学びを進めていくことができる環境を整えていく。他者との対話を通して、相手の考えのよい点や違いを見付けたり、自己の考えと比較したりしながら整理をしていくことで、対話を通して学びを深める児童が育つと考える。

③　学びの深まりや自己の成長を実感する児童

単元のまとめ部分において、児童が学習課題に対して「分かった！もっと知りたい！成長した！」と思える振り返り活動を行う。学習課題を設定し、他者との対話を通して主体的に学んでいくことで、学びを深めることができる。学びが深まることで、児童一人一人が自己の成長を実感することができるようになると考える。

以上の３点を意識して、授業展開を進めていく。他者と意見を共有しながら考えを深めていくことのよさや、必要性を実感することで、本校の目指す「協働的に学ぶ児童」に近づくことができると考える。

５　研究の組織



努力点推進委員会は、校長・教頭・教務主任・校務主任・推進委員長・各学年で選出された推進委員（特別支援学級を含め７人）の合計11人で組織する。

【各学年の推進委員の主な活動内容】

①　目指す児童像の設定・重点指導事項の設定を行う。
②　学年内のスケジュール調整を行う。
③　推進委員会で決定した内容を学年に伝える。
④　学年の状況を推進委員会で発表する。

６　研究の進め方

(1)　各学年で目指す児童像の設定

年度当初の児童の様子を観察した上で、各学年で目指す児童像を設定するようにする。

（みどり組、１年生は、実態に応じて個々の目指す児童像を設定してもよい。）

※　児童の「学びの深まり」は、単元を通した「導入」「展開」「まとめ」の記述や様子、発言などから評価をしていく。

※　イエナプラン教育の軸となる「マルチプルインテリジェンス（見つけてみよう、あなたのタイプ）」を取り入れることで、児童が自己の才能を生かした学習のまとめや、様々な視点から自他の成長や頑張りに気付くことができるようにする。

※　学習の振り返りを蓄積したり、自己評価だけでなく、他者評価（ほめほめタイム）を取り入れた振り返りを行ったりすることで、児童一人一人が自己の成長を実感できるようにする。

(2)　各学年の重点指導事項の設定

各学年で設定した児童像に迫るために、取り組む内容や手立てを決める。

７　検証の方法

(1)　児童自身による振り返り

一単元（または一時間）の学習後や学期末に、自己評価させる。（ワークシートや記述式など）

(2)　学習活動における児童の姿

学習指導案の中に、「学習活動における具体的な児童の姿」を設定する。児童の考えの変容や深まり、学習のまとめの記述の変化などを基に、実践の手立てが有効であったかを検証する。

８　公開授業について

・　全担任が、１学期・２学期のどちらかで公開授業を行う。（どちらで公開するかは学年で相談）

前期：　５月　１日（水）～９月６日（金）まで

後期：　９月　17日（火）～１月24日（金）まで

・　どの教科・単元で公開授業を行ってもよいが、今年度は各学年１実践「生活科」「総合的な学習の時間」で公開授業を行うこととする。

・　事前検討会は、授業日の２週間前までに各部会で集まり、実施する。会の取り回しは学年で行う。あらかじめ、検討の観点を授業者が提示して、会を行う。

・　授業者は、授業日の１週間前までに、指導案（略案）を作成し、各部会で検討後、教務主任に指導案を提出する。

・　授業日の２日前までに、完成した指導案を職員に配付する。

・　事後検討会は、原則、授業実践を行った日の午後に行うこととする。

・　自分が所属する学年部会の公開授業に参観する。

・　授業を参観するときは、略案を参考にし、努力点の参観ポイントとなる時間帯のみの参観も可能とする。

・　各学年の授業実践の様子については、学年だより、ホームページ等を通して、保護者へ情報発信をしていく。

９　報告書の作成について

・　１学期実践を行った先生を中心に中間報告書を、２学期実践を行った先生を中心に最終報告書を作成する。

・　各学年の重点指導事項について、成果（○）と課題（●）をまとめる。

・　学期末に各学年で、気付いたことや今後の実践に向けて考えたことをまとめる。

・　単元を通した学びの中で、児童の学びが深まっている様子や記述、学びのまとめ部分における自己の成長の実感に関する記述等をもとに、手立てが有効であったかを検証し、報告書をまとめるようにする。